秋田県埋蔵文化財センター年報

6

昭和62年度

1988・3

秋田県埋蔵文化財センター

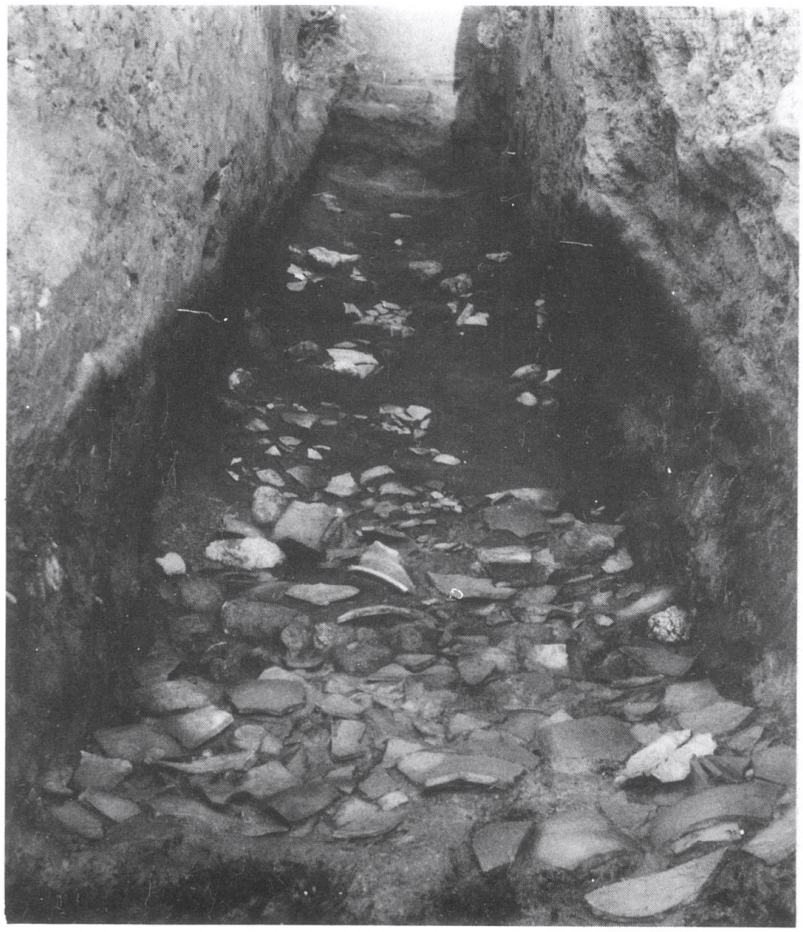
SQ14　配石遺構　上部の配石（中央部が立石）

SQ14　配石遺構　立石の状況

SQ14　配石遺構　下部の配石

巻首図版2　十二林遺跡

SN220(左)・SN221(中央)・SN223(右)　平安時代の炭窯(左右)と須恵器窯(中央)



SN223　須恵器窯内の
須恵器片出土状況

序

当埋蔵文化財センターが、埋蔵文化財の調査・研究、整理・収蔵、保護普及活動の推進を目的として昭和56年に設立されて以来、多くの考古資料が蓄積されてまいりました。すでにこれらの資料は本県の歴史解明を計る手掛りとして多くの方々に活用されていることは喜ばしいかぎりであります。

昭和62年度には22件の発掘調査を実施し、多くの新たな資料を得ることができました。縄文時代では、大館市上ノ山Ⅰ遺跡において全国２例目である鋒形石器が２点発見され、鹿角市玉内遺跡では、特別史跡大湯環状列石に類似する日時計型の配石遺構の検出があり、この種の配石が晩期初頭まで継続することを示す発見となりました。平安時代においては、能代市十二林遺跡から県内で初めての地下式窖窯構造をもつ須恵器窯跡が検出されました。横手市手取清水遺跡では、多くの遺構と多量の遺物が出土しましたが、なかでも墨書土器・木簡などの文字資料は横手盆地の古代・中世史の解明に寄与する所が大である資料と思われます。市町村の調査も含め今年度の調査概要を本年報に収録しました。

「温故知新」の言葉の如く、遺跡は私達の先人が営々と築き上げてきた歴史と文化を知る有力な手掛りであり、うるおいのある県民文化の基礎をなすものであることを御理解いただき、今後とも当埋蔵文化財センターに対する御協力を賜りますよう御願い申し上げます。

昭和63年３月25日

秋田県埋蔵文化財センター
所　長　　冨樫　公一郎

例　　言

1．本書は昭和62年度における秋田県埋蔵文化財センターの活動内容をまとめたものである。

2．発掘調査の概要は、調査担当者が執筆した。

3．本書の編集は出版・展示担当が行った。

目　　次

序

例言、目次

1．昭和62年度秋田県内の発掘調査……3

（1）発掘調査遺跡一覧……3

（2）各遺跡の発掘調査の概要……5

2．研修会……16

3．埋蔵文化財保護普及……17

（1）一般国道7号八竜能代道路建設事業に係る十二林遺跡現地説明会……17

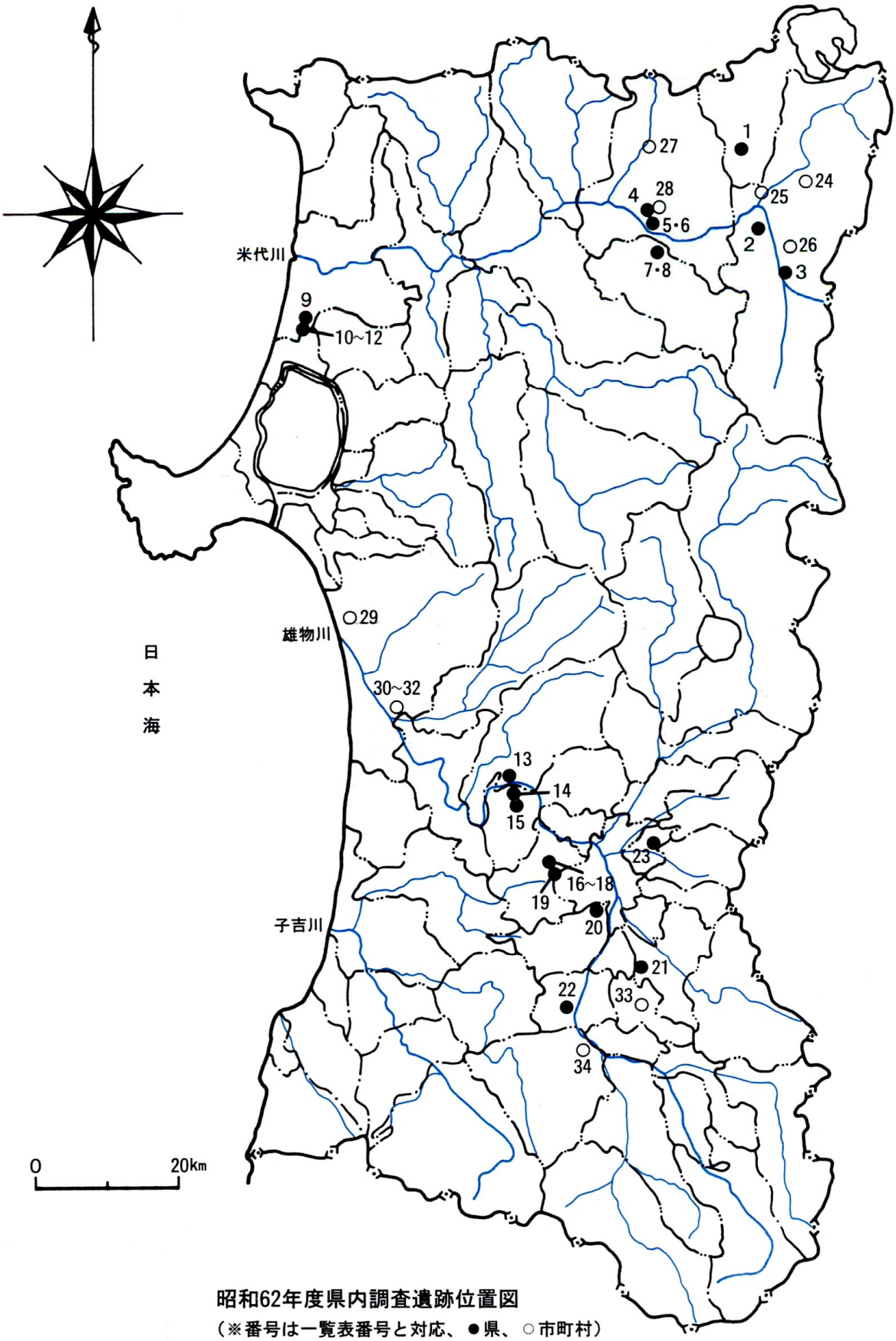
（2）昭和62年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会……17

秋田県埋蔵文化財センター職員録……18

1．昭和62年度秋田県内の発掘調査

（1）発掘調査遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	時代	原因	調査主体者
1	中小坂遺跡	小坂町	9月28日～11月15日	700㎡	縄文	高速交通関連道路整備事業	秋田県教育委員会
2	太田谷地館跡	鹿角市	9月28日～12月15日	1,520㎡	縄文 平安	西山地区農免農道整備事業	秋田県教育委員会
3	玉内遺跡	鹿角市	7月20日～10月2日	550㎡	縄文 平安	国道282号改良事業	秋田県教育委員会
4	山王岱遺跡	大館市	5月6日～7月14日	3,450㎡	縄文・平安 中世	国道103号大館南バイパス建設事業	秋田県教育委員会
5	上ノ山Ⅰ遺跡	大館市	7月22日～12月21日	3,810㎡	縄文 弥生	国道103号大館南バイパス建設事業	秋田県教育委員会
6	上ノ山Ⅱ遺跡	大館市	7月6日～8月24日	420㎡	縄文	国道103号大館南バイパス建設事業	秋田県教育委員会
7	横沢遺跡	比内町	5月6日～6月30日	1,390㎡	縄文 平安	味噌内地区農免農道整備事業	秋田県教育委員会
8	袖ノ沢遺跡	比内町	5月6日～5月30日	610㎡	平安	味噌内地区農免農道整備事業	秋田県教育委員会
9	十二林遺跡	能代市	5月11日～11月14日	4,800㎡	平安	一般国道7号八竜能代道路建設事業	秋田県教育委員会
10	蟹子沢遺跡	能代市	7月20日～10月2日	500㎡	縄文 平安	一般国道7号八竜能代道路建設事業	秋田県教育委員会
11	石丁遺跡	能代市	9月28日～12月15日	1,080㎡	縄文	一般国道7号八竜能代道路建設事業	秋田県教育委員会
12	福田遺跡	能代市	5月11日～8月1日	4,760㎡	縄文 平安	一般国道7号八竜能代道路建設事業	秋田県教育委員会
13	半仙遺跡	協和町	4月22日～6月13日	3,150㎡	縄文	東北横断自動車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
14	寺沢遺跡	西仙北町	4月22日～6月23日	8,560㎡	縄文 平安	東北横断自動車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
15	上野台遺跡	西仙北町	5月11日～8月27日	9,000㎡	縄文・弥生 平安・中世	東北横断自動車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
16	小出Ⅰ遺跡	南外村	10月13日～12月19日	3,100㎡	旧石器 縄文	東北横断自動車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
17	小出Ⅱ遺跡	南外村	10月13日～12月19日	1,100㎡	縄文	東北横断自動車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
18	小出Ⅲ遺跡	南外村	10月13日～12月9日	6,100㎡	縄文	東北横断自動車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
19	大畑潜沢 Ⅲ遺跡	南外村	11月5日～11月17日	4,880㎡	縄文	東北横断自動車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
20	下田遺跡	大森町	4月27日～8月7日	18,400㎡	縄文 平安	東北横断自動車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
21	手取清水遺跡	横手市	4月17日～12月12日	13,000㎡	縄文・弥生 平安～近世	東北横断自動車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
22	根羽子沢遺跡	雄物川町	5月18日～5月31日	400㎡	縄文	国道107号改良工事	秋田県教育委員会
23	払田柵跡	仙北町 千畑町	4月13日～11月17日	846㎡	平安	払田柵跡学術調査	秋田県教育委員会
24	大湯環状列石 周辺遺跡	鹿角市	5月6日～10月17日	2,347㎡	縄文 平安	大湯環状列石周辺遺跡学術調査	鹿角市教育委員会
25	柏崎館遺跡	鹿角市	10月5日～11月13日	498㎡	縄文 近世	道路改良工事	鹿角市教育委員会
26	花輪館跡	鹿角市	6月25日～7月10日	563㎡	中世 近世	公園整備	鹿角市教育委員会
27	大館野遺跡	大館市	6月29日～10月31日	2,905㎡	平安	体育館・保育園建設	大館市教育委員会
28	山王台遺跡	大館市	11月9日～11月13日	315㎡	平安	範囲確認調査	大館市教育委員会
29	秋田城跡	秋田市	4月2日～10月31日	2,107㎡	奈良 平安	秋田城跡学術調査	秋田市教育委員会
30	下堤A遺跡	秋田市	7月20日～12月26日	11,000㎡	縄文	新都市開発	秋田市教育委員会
31	下堤B遺跡	秋田市	10月6日～12月26日	5,100㎡	縄文	新都市開発	秋田市教育委員会
32	下堤C遺跡	秋田市	4月16日～5月29日 7月6日～10月16日	17,700㎡	平安	新都市開発	秋田市教育委員会
33	年子狐遺跡	平鹿町	10月22日～12月11日	5,000㎡	縄文 奈良	範囲確認調査	平鹿町教育委員会
34	七窪遺跡	羽後町	6月1日～8月3日	834㎡	平安	農業関連開発	羽後町教育委員会



昭和62年度県内調査遺跡位置図

（※番号は一覧表番号と対応、●県、○市町村）

（２）各遺跡の発掘調査の概要

中小坂遺跡

所在地	鹿角郡小坂町小坂字中小坂25-3	事業名	高速交通関連道路整備事業
調査期間	昭和62年９月28日～11月25日	事業関係機関	秋田県土木部鹿角土木事務所
調査面積	700㎡	調査担当者	武藤祐浩・栗沢光男

遺跡は、同和鉱業小坂鉄道小坂駅の西方約0.9㎞に位置し、県道２号（大館・十和田湖線）の北側を東流する苗代沢川左岸の狭小な河岸段丘上に立地している。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡３軒、土坑11基、配石遺構３基、焼土遺構２基と時期不明の土坑１基を検出した。竪穴住居跡のうち２軒は、径4.33～5.44ｍのほぼ円形プランで、残り１軒は長軸5.17ｍの楕円形を呈している。いずれも床面のほぼ中央部に地床炉を有する、縄文時代後期の住居跡である。また、配石遺構SQ04は、約170個のやや偏平の礫が敷きつめられたもので、平面形がほぼ三角形を呈し、長軸（北東↔南西）3.07ｍ、短軸（北西↔南東）2.5ｍを測る。配石下には何等施設は検出されなかった。時期は縄文時代後期である。

遺物は、縄文時代後期の土器・石器が多く、他に中期・晩期の遺物も出土した。

太田谷地館跡

所在地	鹿角市花輪字中畑33-1	事業名	西山地区農免農道整備事業
調査期間	昭和62年９月28日～12月15日	事業関係機関	秋田県農政部鹿角農林事務所
調査面積	1,520㎡	調査担当者	大野憲司・高橋　学・児玉　準・栗沢光男・横山伸司

遺跡は、ＪＲ十和田駅の南約2.5㎞に位置する。遺跡付近には、花輪盆地の西端を北流する米代川左岸に形成された標高約156ｍ前後の鳥越段丘が存在するが、遺跡はこの段丘から東に張り出した舌状台地上に立地する。

調査の結果、多数の遺構とこれに伴う遺物が出土したが、遺物は大部分のものが平安時代のもので、中世のものは全くない。従って遺構の年代も大部分は平安時代のものと考えられる。検出した遺構は、空堀３条、竪穴住居跡53軒、土坑73基などが主なものである。これらは空堀によって切られた舌状台地部分約800㎡に集中しており、重複に重複を重ねている。一方空堀の外側は、トレンチ調査によれば同時期の遺構の分布密度は低く、空堀内側とは極立った対象をなしている。このため、どのような集団が、どのような理由によって空堀の内側に多くの遺構を残したか、興味のあるところである。

玉内遺跡

所在地	鹿角市八幡平字玉内54-1	事業名	国道282号改良事業
調査期間	昭和62年7月20日～10月2日	事業関係機関	秋田県土木部鹿角土木事務所
調査面積	500m²	調査担当者	大野憲司

調査地は、標高約174mの段丘端部及び崖斜面と、この崖面下部に棚状に分布する標高約152mの段丘面である。後者をA地区、前者をB地区として調査した。

玉内遺跡は、昭和36年所有者の自宅改築の際に、大湯環状列石中の小単位（日時計状組石）と同じタイプの配石遺構が、主に縄文晩期の土器と一緒に検出された遺跡である。A地区はこの配石遺構の西側に隣接する部分で、約100m²を調査した。

調査の結果、縄文時代後期末葉～晩期前葉の配石遺構5基、土壙墓11基、土器棺墓3基が検出され、同時代の土器・石器が出土した。配石遺構中には、壙下部に100個以上の河原石を敷き並べ、上部には立石とそれを放射状に囲む組石（いわゆる日時計状組石）を持つものがあり注目される。B地区からは、縄文時代中期末葉の竪穴住居跡2軒、同晩期の土壙墓2基、土器棺墓47基、平安時代の竪穴住居跡5軒、土坑5基の他、中世と考えられる溝状遺構8条などを検出した。

山王岱遺跡

所在地	大館市餌釣字山王岱3	事業名	国道103号大館南バイパス建設事業
調査期間	昭和62年5月6日～7月14日	事業関係機関	秋田県土木部北秋田土木事務所
調査面積	3,450m²	調査担当者	大野憲司

遺跡は、標高約75～80mの平坦な段丘面から南に延びた二等辺三角形を呈する中世城館の1つとされている館跡で、今回その北東隅部を調査した。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡2軒（中期・後期）、フラスコ状土坑1基、平安時代の土坑3基などの他、時代を特定できないものの、中世に属すると考えられる空堀3条、溝状遺構2条、井戸跡1基、火葬墓3基、被火骨出土遺構4基、柱穴多数などを検出した。しかし遺構に伴う遺物は極めて少なく、多くの遺構の年代推定を困難なものにしている。これらの遺構では3基の火葬墓が注目される。この中の1基は、小判形の平面形（1.25×0.75m）を呈し、中央部に頭部を北にした人骨が横臥屈葬の形で火葬されている。土壙は底面や壁が良く焼け、土壙長軸に直交する形で送風施設と考えられる溝もあることから、遺体が壙の中で火葬され、そのまま埋められたものと考えられる。

上ノ山（かみのやま）Ⅰ遺跡

所在地	大館市山館字上ノ山561	事業名	国道103号大館南バイパス建設事業
調査期間	昭和62年7月22日～12月21日	事業関係機関	秋田県土木部北秋田土木事務所
調査面積	3,810m²	調査担当者	船木義勝・小畑　巌・武藤祐浩・桜田　隆・小林　克

遺跡は、大館市中心部南東から4.5㎞、米代川右岸の標高約80ｍの台地上に位置する。調査区は、北から南へ階段状に傾斜しており、地山上面までの土の厚さは、北側で20～30㎝、南側の最も厚いところで約２ｍを測り、７層に分層できた。

調査の結果、調査区北側では、縄文時代晩期と思われるフラスコ状土坑10基、時期不明の土坑３基、土器捨て場として利用された３本の沢を検出した。うち沢No.３は、竪穴住居跡が開析されて形成された沢であり、その後土器捨て場として利用されたものと推定される。また３つの沢からは、円筒土器が層位的に把握できる状態で出土し、沢No.１では弥生土器も検出された。調査区南側では、Ⅱ層上面で遺物集中地区１箇所、Ⅲ層上面及びⅢ層中で竪穴住居跡１軒、竪穴状遺構３基、土坑16基、フラスコ状土坑１基、Ⅵ層中で竪穴住居跡７軒（うち２軒は長軸10ｍを測る）を検出した。各遺構の時期は、おおよそ縄文時代前期と考えられる。遺物は縄文土器と石器が多量に出土した。中でも鋒形石器は極めて稀な遺物である。

上ノ山（かみのやま）Ⅱ遺跡

所在地	大館市山館字上ノ山15	事業名	国道103号大館南バイパス建設事業
調査期間	昭和62年７月６日～８月24日	事業関係機関	秋田県土木部北秋田土木事務所
調査面積	420m²	調査担当者	小畑　巌

遺跡は、上ノ山Ⅰ遺跡から南東に150ｍ離れた標高約75ｍの台地縁辺部に位置する。調査区の西側と南側から入っている谷部を除き、表土から地山上面までの厚さは20～30㎝を測る。

調査の結果、地山上面で竪穴住居跡１軒、土坑１基を検出した。竪穴住居跡は長軸約3.5ｍ、短軸約7.7ｍの楕円形を呈し、住居床面中央からやや北西に寄ったところに石囲炉を有する。また住居中央部で石囲炉の痕跡（石抜き取り痕）が検出された。この石囲炉の石は、新たに石囲炉を構築する際に使用するため、抜き取られたものである。遺物は、竪穴住居跡から縄文時代後期のものと思われる土器片少量と谷部から縄文時代前期～晩期の土器片が多量に出土した。

横沢遺跡

所在地	北秋田郡比内町扇田字横沢3	事業名	味噌内地区農免農道整備事業
調査期間	昭和62年5月6日～6月30日	事業関係機関	秋田県農政部北秋田農林事務所
調査面積	1,390㎡	調査担当者	小畑　巌・桜田　隆

遺跡は、味噌内丘陵が開析されて残る独立丘上に立地している。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡2軒、土坑4基、フラスコ状土坑26基、平安時代の竪穴住居跡8軒、竪穴状遺構1基、時期不明の土坑2基、竪穴状遺構2基、空堀1条、溝1条である。フラスコ状土坑は、開口部径60～80㎝、底径1.5～2ｍ、深さ1～2ｍを測り、坑底中央部に直径20㎝、深さ10～20㎝のピットが穿たれたものもある。平安時代の竪穴住居跡は、1辺4～7ｍの方形を呈し、南側壁にかまどが付設されている。遺物は、かまど周辺とその内部から集中して出土したが、杯はほとんど見られず、甕が多い。ＳＤ02の空堀は、断面形が箱薬研形を呈するが、館跡のものか、時期も不明である。なお、平安時代の竪穴住居跡を堀り込んで構築されている6号土坑の埋土上半から、白頭山起源の苫小牧火山灰が、縄文時代の竪穴状遺構の埋土上面から大湯浮石が検出された。両火山灰が同処で検出された例は初見である。遺物は、縄文時代早期の貝殻腹縁文尖底土器、土偶、中期の土器片と平安時代の甕形・鍋形土師器、羽口などが出土した。

袖ノ沢遺跡

所在地	北秋田郡比内町味噌内袖ノ沢67-3	事業名	味噌内地区農免農道整備事業
調査期間	昭和62年5月6日～5月30日	事業関係機関	秋田県農政部北秋田農林事務所
調査面積	610㎡	調査担当者	桜田　隆

遺跡は、味噌内地区農免農道整備事業の同一路線上にある、横沢遺跡の南東0.6㎞に位置する。調査区はほぼ平坦であり、表土から地山上面までの厚さは70～80㎝を測る。

調査の結果、地山上面で平安時代の竪穴住居跡5軒、時期不明の土坑2基、柱穴様ピット多数を検出した。竪穴住居跡は、四隅と壁中央に主柱穴を有する形態で、横沢遺跡の平安時代の竪穴住居跡と同時期のものと推定される。遺物は土師器片と羽口片が出土した。なお、竪穴住居跡は、現地表面下15～20㎝の深さの黒ボク土からローム層まで掘り込んで構築され、大湯浮石粒や地山ロームブロックを多量に混入する黒褐色土を埋土としている。

十二林遺跡

所在地	能代市浅内字十二林39-1	事業名	一般国道7号八竜能代道路建設事業
調査期間	昭和62年5月11日～11月14日	事業関係機関	建設省東北建設局能代工事事務所
調査面積	4,800m²	調査担当者	高橋　学・小林　克・三嶋隆儀

遺跡は、一昨年調査された寒川Ⅰ、Ⅱ遺跡の南側、標高25m前後の舌状台地上にある。

調査の結果、九世紀末葉を中心とした時期の竪穴住居跡15軒、掘立柱建物跡4棟、土坑95基、製鉄炉2基、土器焼成遺構11基、須恵器窯1基、炭窯2基などが検出された。米代川流域での初例となった須恵器窯は、全長8m、窯体幅1.2m、高さ0.8mを測り、斜面をくり抜いた窖窯で、坏、甕、壺などが出土している。この須恵器窯の西脇に検出された炭窯は、全長8m、窯体幅1.4mの地下式で、焚口部に製鉄炉壁体の大破片を伴っている。以上のような斜面上の生産遺構と台地上面で検出された竪穴住居跡群とを考え合せると、本遺跡は平安時代中葉の製鉄業、窯業と深く結びついた集落跡であるといえる。また、本遺跡の須恵器窯は平安時代中葉としては特異な窖窯の形態をもち、東北北半部の須恵器生産を考える上で貴重な資料を追加したものといえよう。

蟹子沢遺跡

所在地	能代市浅内字蟹子沢43	事業名	一般国道7号八竜能代道路建設事業
調査期間	昭和62年7月20日～10月2日	事業関係機関	建設省東北建設局能代工事事務所
調査面積	500m²	調査担当者	高橋　学

遺跡は、十二林遺跡と石丁遺跡の間に位置し、台地上に立地する両遺跡を分断している沢部にあたる。標高は約11m、現況は水田となっている。

調査の結果、遺構は検出できなかったが、地山がある砂層面より縄文時代後期中葉を中心とする遺物を確認できた。砂層上面には腐植しきっていない植物遺存体が多く含まれており、暗褐色を呈している。いわゆる泥炭層として把えるには未発達であり、泥土（砂）とでも称することができよう。遺物はこの泥土（砂）と砂層面に挟まれるようにかつ、径4m程の範囲から集中的に検出されている。

この他調査区東側で、土師器杯1個体分、表土（耕作土）からは時期不明であるが、陶器が10点出土している。後者については、堆肥とともに運ばれてきた近現代のものである可能性がある。

石丁（こくちょう）遺跡

所在地	能代市浅内字石丁家上46	事業名	一般国道７号八竜能代道路建設事業
調査期間	昭和62年９月28日～12月15日	事業関係機関	建設省東北建設局能代工事事務所
調査面積	1,080㎡	調査担当者	高橋　学・横山伸司

遺跡は、十二林遺跡を臨む標高30～32ｍの台地上に立地する。現状は山林である。発掘調査は工程上、道路本線部分を８月～９月に、取り付け道路部分を11月に分けて実施した。

調査の結果、縄文時代と考えられるＴピット（陥穴）２基、時期は不明であるが、土坑１基、焼土遺構４基を検出した。Ｔピットは長軸2.3ｍと2.7ｍ、深さが0.65ｍと0.8ｍを測るもので、Ｔピットとしては小形の部類に入るものであろう。土坑は径１ｍ程の円形を呈している。周壁と深さ0.25ｍの鍋底状を示す底面が著しい火熱を受けていることから、何らかの窯であった可能性が高い。出土遺物もなく、年代観を含めて「何を焼成したのか」は不明である。出土した遺物は総て遺構外出土である。縄文時代後期前葉が主で、前期とみられる土器片も混じる。石器には石槍、石箆などがある。

福田（ふくだ）遺跡

所在地	能代市浅内字福田上野204	事業名	一般国道７号八竜能代道路建設事業
調査期間	昭和62年５月11日～８月１日	事業関係機関	建設省東北建設局能代工事事務所
調査面積	4,760㎡	調査担当者	高橋　学・横山伸司

遺跡は、ＪＲ能代駅から南に８㎞の成合台地と呼ばれる海成段丘上に立地している。八竜能代道路関係では本年度調査した４遺跡のうちで最も南に位置する。標高は32～37ｍ、現況は畑地、山林である。

調査の結果、縄文時代の土坑１基、Ｔピット（陥穴）１基、平安時代の竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡７棟、土坑34基、竪穴状遺構３基、焼土遺構３基、溝跡12条、柱穴列２列の遺構を検出している。住居跡は、一辺４ｍ四方の方形を呈するものが多く、南壁もしくは東壁にカマドをもつ。建物跡には、掘り方の間に溝をもつものが存在する。溝跡には、底面にピットが掘り込まれているものがあり、住居跡や建物跡の外周を巡るように配置されていることから、塀や垣根などの施設であった可能性がある。出土遺物は縄文土器と土師器や須恵器の杯・皿・甕などである。

半仙（はんせん）遺跡

所在地	仙北郡協和町峰吉川字半仙48	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和62年４月22日～６月13日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	3,150㎡	調査担当者	利部　修・村上光明

遺跡は、ＪＲ峰吉川駅の南西１㎞の段丘上に位置し、南側を東西に流れる雄物川に近接している。この地は標高22～32ｍ、東西約100ｍ×南北約60ｍで舌状の地形を形成し、西側を除く３つの斜面は急である。調査は昨年度からの継続調査で、路線幅約60ｍの調査区のうち東側半分は終了しており、本年度は残る西側半分の調査を行った。

調査の結果、縄文時代の土坑９基、Ｔピット３基、土器埋設遺構１基、弥生時代の土坑１基などを検出した。土坑は平面形が楕円形と円形のものが大半で、口径1.2×深さ1.1ｍの土坑には径20㎝、底面からの深さ50㎝のピットをもつ円筒形の土坑もある。遺物は縄文時代前期、中期、後期、弥生時代と各時代の土器片があり、石器は石鏃、石箆、石錐、凹石などが検出された。昨年度調査分を考慮すると、当遺跡は縄文時代前期～後期、弥生時代にわたる複合遺跡で、遺構の分布は舌状地形の東よりに中心をもち、最も高い部分から緩斜面にかけて多く存在している。

寺沢（てらさわ）遺跡

所在地	仙北郡西仙北町九升田字前山1-1	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和62年４月22日～６月23日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	8,560㎡	調査担当者	武藤祐浩・栗沢光男

遺跡は、ＪＲ刈和野駅の南西約4.3㎞に位置し、その北方約２㎞の地点を西流する雄物川によって形成された河岸段丘上に立地する。遺跡は北側で標高55.3ｍ、南側で標高48.5ｍを測る南向きの緩い斜面地である。

調査の結果、竪穴住居跡２軒、土坑18基、井戸状遺構１基を検出した。竪穴住居跡は一辺が3.5～4.5ｍの隅丸方形で、かまどを有する平安時代の住居跡である。土坑は18基検出したが、時期を把握できたのは縄文時代前期初頭の土器が出土したＳＫ05の１基だけである。井戸状遺構は、遺跡地が開墾造成された際に埋められた、調査区南東部の旧沢部の底面で検出された。厚さ２㎝、幅15㎝、長さ20～40㎝（残存値）ほどの板材の長軸の一端を削って、地面に打ち込んで作られた一辺80㎝前後の方形の枠組みである。その時期は出土遺物がなく不明である。出土遺物は、縄文時代前期の土器、石器、平安時代の土師器などである。

上野台遺跡

所在地	仙北郡西仙北町強首字上野台23	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和62年5月11日～8月27日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	9,000m²	調査担当者	栄　一郎・利部　修・武藤祐浩・高橋忠彦 栗沢光男・村上光明・鎌田　茂

遺跡は、西仙北町のほぼ中央部、標高50～60mの台地上に位置している。台地には多くの開析谷が入り込み台地先端部は舌状を呈しており、遺跡も台地北側の先端部にありA・B・Cの3区からなる。調査前には牧草地であり、この牧草地造成時に遺物包含層や遺構の多くが削平を受けている。

調査の結果、A区では縄文時代中期前半の竪穴住居跡や土坑、遺物では縄文時代中期から弥生時代の土器・石器、平安時代の土師器・須恵器、中世の珠洲系陶器が出土している。B区では縄文時代中期終末の竪穴住居跡や土坑とそれに伴う土器・石器を検出している。C区では縄文時代中期終末～後期初頭の竪穴住居跡5軒と該期の掘立柱建物跡2棟、土坑21基、捨て場1箇所を検出している。掘立柱建物跡は縄文時代のものとしては県内で2例目である。また捨て場は断層によって生じた溝を利用したもので、縄文時代前期初頭の表裏縄文土器と後期初頭の土器が層位的に出土している。

小出Ⅰ遺跡

所在地	仙北郡南外村字小出443	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和62年10月13日～12月19日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	3,100m²	調査担当者	谷地　薫・沢田康志・小山内　透

遺跡は、雄物川の支流楢岡川の右岸に形成された標高約70mの高位段丘上に立地する。本年度は遺跡の北縁部を調査したにとどまった。

調査の結果、遺構は検出されなかったものの、縄文時代前期の土器片とフレークが出土した。出土遺物は小出II遺跡出土のものと類似しており、縄文時代人が段丘縁辺部に形成された小舌状台地を連続的に利用していた痕跡が確認された。来年度調査予定区域は試掘の結果、縄文時代前期、晩期の土器、陶器等の他、旧石器時代のナイフ形石器やスクレイパー等が出土しており、遺跡の中心部と考えられる。特に旧石器時代のユニットが存在する可能性が高く、雄物川中流域の旧石器時代の様相を解明する上で重要な遺跡である。

小出（こいで）II 遺跡

所在地	仙北郡南外村字小出455	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和62年10月13日～12月19日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	1,100㎡	調査担当者	谷地　薫・沢田康志・小山内　透

遺跡は、雄物川の支流楢岡川の右岸に形成された標高約60mの中位段丘上に立地する。本年度は全体の約3分の1の調査を行った。

調査の結果、台地上で縄文時代前期の土坑8基が検出された。いずれの土坑も上部を削平されており、形態や規模が不明で、墓壙なのか貯蔵穴なのか判別し難い。斜面には小規模な捨場が形成されており、縄文時代前期の土器片や石匙、凹石等が出土した。また、土師器の小型甕の中に入って、焼けた骨片が出土した。来年度調査予定区域を試掘したところ、斜面下部で土師器、須恵器が出土しており、台地上には平安時代の集落跡が存在するものと考えられる。今回出土した土師器甕に入った骨片は、集落に近接する台地上に火葬骨が埋葬されていたことを示唆しており、平安時代の埋葬様式を検討する上で注目すべき例である。

小出（こいで）III 遺跡

所在地	仙北郡南外村字小出461-1	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和62年10月13日～12月9日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	6,100㎡	調査担当者	栄　一郎・村上光明・鎌田　茂

遺跡は、楢岡川右岸の標高40～45m前後の河岸段丘上に立地する。本遺跡は開析谷によって数地点に分かれ、本年度は中央部分の調査を行った。

調査の結果、竪穴住居跡1軒、土坑8基、土器埋設遺構1基、焼土遺構1基を検出した。竪穴住居跡は台地中央部に位置し、径3.5m前後の円形プランを呈している。中央部には石囲炉を有している。土坑は竪穴住居跡を囲む形で分布する。土器埋設遺構は台地基部付近に、焼土遺構は竪穴住居跡の南隣に位置している。遺物には縄文中期末～後期初頭土器、若干の石器類などがある。

本年度の調査地点は小規模の舌状台地上に立地する集落遺跡であった。遺跡はほぼ縄文時代中期末～後期初頭にかけての短期間に営まれたものと見られ、該期の集落の一つの在り方を示していると考えられる。

大畑潜沢(おおはたくぐりさわ)Ⅲ遺跡

所在地	仙北郡南外村字大畑潜沢255	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和62年11月5日～11月17日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	4,880m²	調査担当者	栄　一郎・村上光明・鎌田　茂

遺跡は、西向きに舌状にのびる丘陵先端部に立地する。丘陵頂部は幅10m前後に過ぎず、典型的な馬の背状を呈している。丘陵頂部の標高は75～84mであった。

調査の結果、丘陵頂部中央の平坦面とその南側の緩斜面で、Tピット2基、底面にピットを有する土坑1基を検出した。2基のTピットは長さ3.4～4.0m、幅0.4～0.6mの溝状の平面形を持ち、共にその長軸方向が丘陵のそれとほぼ平行している。検出面からの深さは1.1～1.3m前後であった。底面にピットを有する土坑は2基のTピットの中間で検出した。径約1.3m、深さ0.9mの円筒形の掘り形を持ち、底面に小ピットを有している。遺物は遺構からは出土せず、丘陵頂部の緩斜面で縄文後期土器と使用痕のある剥片を検出した。

本遺跡は以上の遺構・遺物の検出状況から縄文時代後期の一時期に丘陵頂部に陥し穴を設置して利用された狩り場であったと考えられる。

下田(しもだ)遺跡

所在地	平鹿郡大森町板井田字下田7	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和62年4月27日～8月7日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	18,400m²	調査担当者	船木義勝・谷地　薫・沢田康志 和泉昭一・小山内　透

遺跡は、横手盆地西縁の標高30～50mの丘陵上に立地する。

調査の結果、縄文時代の土坑28基、平安時代の竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡2棟、土坑13基等が検出された。縄文時代の土坑は前期の陥し穴と晩期の土壙墓群である。土壙墓群は丘陵上に形成されており、その中の1基では土壙に隣接して、赤色顔料を塗布した小型の壺、皿、台付鉢が出土した。遺物は前期、晩期の土器、石匙、石箆、凹石、玦状耳飾等の石器類が出土した。特に石箆が約200点、凹石が約100点、フレークがコンテナで約20箱出土しており注目される。平安時代の遺構には埋土中に火山灰が堆積している。掘立柱建物跡のうち1棟は焼失したもので、柱間を結ぶ板材の痕跡が検出された。遺物は土師器、須恵器の他に八稜鏡が一面出土した。土師器の中には、秋田県内ではきわめて出土例の少ない羽釜が、坏、甕と共に竪穴住居跡のカマドから出土している。

手取清水遺跡

所在地	横手市清水町新田字四川端22	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和62年4月17日～12月12日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	13,000m²	調査担当者	柴田陽一郎・山崎文幸・沢田康志・和泉昭一・村上光明 鎌田　茂・小山内　透・石川恵美子・能登谷宣康

遺跡は、横手市の西端、横手盆地のほぼ中央に位置し、蛇行する皿川に形成された標高40.3～42.9mの平坦面に立地する。現況は水田を主とし畑地、原野が一部含まれる。

遺跡は、昭和35年の調査によって秋田県を代表する弥生時代の遺跡として知られていたが、調査の結果、縄文時代晩期・弥生時代・平安時代・中世・近世の複合遺跡であることが判明した。検出遺構は、柱列跡40列、掘立柱建物跡22棟、溝状遺構70条、井戸跡9基、竪穴住居跡1軒、竪穴状遺構6基、土坑70基、配石遺構3基、河川跡4条、土器埋設遺構4基、焼土遺構3基、その他の遺構70基の計300遺構である。遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中世陶磁器、近世陶磁器、木簡、墨書土器（伴・井・占・日・蝮）、硯、斉串、鳥形、将棋の駒（桂馬）等の木製器などが出土した。検出遺構、出土遺物から本遺跡の主体は、平安時代と考えられる。また掘立柱建物群の存在、豊富な文字資料及び時代の特定できない祭祀用具等の出土は、一般集落と性格を異にするものであり、周辺遺跡をも含めて今後解明していく必要がある。

払田柵跡

所在地	仙北郡仙北町払田・千畑町本堂城回	事業名	払田柵跡学術調査
調査期間	昭和62年4月13日～11月17日	事業関係機関	秋田県教育庁払田柵跡調査事務所
調査面積	846m²	調査担当者	児玉　準

第68～73次にわたる調査を行った。第68次調査で検出された内郭東門は、これまで数次にわたり検出に努めてきたが、一昨年長森北東部を東西に走る築地土塀が南に曲折する箇所を発見したことが、位置推定の有力な手がかりとなった。門は桁行3間×梁行2間の掘立柱による八脚門であることが明らかとなり、これまでに知られていた内郭北門・南門に加え、東門が明らかとなったことによって、未発見の内郭西門の存在も断定できる。内郭東門は内郭北門・南門と同様に内郭線が八の字形に内側に入り込む位置に門が取り付き、築地には直接門が取り付かない構造である。内郭東門の場合、八の字形部分は創建時には板塀として作られ、築地土塀が崩壊した後に内郭線II期目の角材列と一体のものとして造営されたものであろう。この部分は北門では角材列、南門では石塁と変化に富む作りとなっている。この他、第73次調査では外郭線角材列の東端部を調査し、角材23本がこれまでにないほど極めて良好な状態で検出された。

２．研修会

当センターでは、設立以来毎年市町村文化財関係職員を対象として、埋蔵文化財に関する研修会を実施している。本年度は、昨年度行われた『発掘調査の方法とその実際』の研修を引き継いで、出土遺物などの整理収蔵についての研修を行った。その概要は以下のとおりである。

昭和62年度秋田県埋蔵文化財研修会

Ⅰ）　期　日

昭和62年９月10日（木）・９月11日（金）

Ⅱ）　会　場

秋田県埋蔵文化財センター第１研修室・第１整理室

Ⅲ）　参加者

市町村文化財関係職員

Ⅳ）　内　容

①研修テーマ

『遺物の整理と収蔵について』

②研修内容

第１日目　９月10日（木）

ａ．遺物の整理（遺物の洗浄・遺物への注記・遺物の復元）

ｂ．遺物の収蔵（収蔵方法）

ｃ．遺物の発見届と保管証について（記入・提出方法）

第２日目　９月11日（金）

ａ．講　演

演　題　『年輪年代学と考古学』

講　師　奈良国立文化財研究所主任研究官　光谷拓実

ｂ．質問・自由討議

３．埋蔵文化財保護普及

昭和62年度は一般国道７号八竜能代道路建設事業に係る十二林遺跡現地説明会と、埋蔵文化財発掘調査報告会を実施した。

（１）一般国道７号八竜能代道路建設事業に係る十二林遺跡現地説明会

Ⅰ）　期　日　　昭和62年11月７日（土）午後２時～４時

Ⅱ）　主　催　　秋田県埋蔵文化財センター

Ⅲ）　会　場　　十二林遺跡発掘調査現場

Ⅳ）　対　象　　一般県民

一般国道７号八竜能代道路建設事業予定地に位置する十二林遺跡の発掘調査を大部終了した段階で、その成果を県民に公表すると共に、本遺跡を通して埋蔵文化財に対する理解を深めて頂くため現地説明会を開催した。当日は、地元能代市をはじめ広く県内外から多数の参加者があり、調査担当者の説明に熱心に耳を傾け、メモをとる光景が随所でみられた。また検出遺構のうち県内では検出例のない地下式の須恵器窯跡に関心が集まり、いろいろな質問が出されるなど、説明会は盛会裡に終了した。

（２）昭和62年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

Ⅰ）　期　日　　昭和63年３月13日（日）午前10時～午後１時15分

Ⅱ）　主　催　　秋田県教育委員会

Ⅲ）　会　場　　大曲仙北広域交流センター１階講堂

Ⅳ）　対　象　　一般県民

Ⅴ）　報告遺跡

上ノ山Ⅰ遺跡……桜田　隆

十二林遺跡……高橋　学

手取清水遺跡……柴田陽一郎

玉内遺跡……大野憲司

太田谷地館跡……大野憲司

払田柵跡……児玉　準

昭和56年度から始めた埋蔵文化財発掘調査報告会も８回目を迎え、すっかり県民の間に定着し、本年度も多くの県民の参加をみた。

秋田県埋蔵文化財センター職員録

（昭和63年３月現在）

所　　長	冨　樫　公一郎
副所長	岩　見　誠　夫
主　　査	加　藤　　進
主　　事	高　橋　忠太郎
学芸主事	船　木　義　勝
学芸主事	大　野　憲　司
学芸主事	榮　　一　郎
学芸主事	利　部　　修
学芸主事	小　畑　　巌
学芸主事	高　橋　　学
学芸主事	谷　地　　薫
学芸主事	武　藤　祐　浩
文化財主任	桜　田　　隆
文化財主事	柴　田　陽一郎
文化財主事	児　玉　　準
文化財主事	高　橋　忠　彦
文化財主事	小　林　　克
文化財主事	栗　沢　光　男
文化財主事	山　崎　文　幸
非常勤職員	高　橋　中　二
非常勤職員	小山内　　透
非常勤職員	沢　田　康　志
非常勤職員	和　泉　昭　一
非常勤職員	村　上　光　明
非常勤職員	鎌　田　　茂
非常勤職員	石　川　恵美子
非常勤職員	能登谷　宣　康

秋田県埋蔵文化財センター年報　6
（昭和62年度）

昭和63年３月25日発行

発　行　　**秋田県埋蔵文化財センター**
秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電 話 0187-69-3331

印　刷　　有限会社　佐　藤　印　刷